

2016年主要文献目録 (2016年刊行の文献を掲載対象としている)

*国際法、国際私法の雑誌名は原則として法律編集者懇話会のものを使用した。略語表は『法律関係8学会共通会員名簿』又は『法律時報』88巻13号(2016年12月)を参照。

国際政治・外交史

著書

[一般]

青木 昌彦、岡崎 哲二、神取 道宏 (監修)	叢書《制度を考える》 比較制度分析のフロンティア	NTT出版
コフィ・アナン、ネイダー・ムザヴィザドゥ (著), 白戸 純 (訳)	介入のとき コフィ・アナン回顧録 上・下	岩波書店
グリアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ (著), 漆嶋 稔 (訳)	決定の本質——キューバ・ミサイル危機の分析 第2版 I・II	日経BP社
飯倉 章	第一次世界大戦史——諷刺画とともに見る指導者たち	中公新書
五十嵐 元道	支配する人道主義——植民地統治から平和構築まで	岩波書店
磯村 英司	戦争する国にしないための中立国入門	平凡社新書
猪木 武徳	自由の思想史——市場とデモクラシーは擁護できるか	新潮選書
猪木 武徳	叢書・知を究める 自由の条件——スミス・トクヴィル・福澤諭吉の思想的系譜	ミネルヴァ書房
岩下 明裕	入門 国境学——領土、主権、イデオロギー	中公新書
岩田 修一郎	21世紀の軍備管理論	芙蓉書房
デイヴィッド・A・ウェルチ (著), 田所 昌幸 (監訳)	苦渋の選択——対外政策変更に関する理論	千倉書房
宇野 重規	政治哲学的考察——リベラルとソーシャルの間	岩波書店
宇野 重規	保守主義とは何か——反フランス革命から現代日本まで	中公新書
大芝 亮	国際政治理論——パズル・概念・解釈	ミネルヴァ書房
大矢根 聡、大西 裕 (編)	FTA・TPPの政治学——貿易自由化と安全保障・社会保障	有斐閣
片山 善雄	テロリズムと現代の安全保障	亜紀書房
加茂 直樹	平和的秩序の確立を求めて——ホップズから現代まで	晃洋書房
川上 高司 (編)	「新しい戦争」とは何か——方法と戦略	ミネルヴァ書房
川村 仁子	グローバル・ガバナンスと共和主義——オートポイエーシス理論による国際社会の分析	法律文化社

北野 充	核拡散防止の比較政治——核兵器保有に至った国、断念した国	ミネルヴァ書房
ヘンリー・キッシンジャー (著), 伏見 威蕃 (訳)	国際秩序	日本経済新聞出版社
金 恵京	無差別テロ——国際社会はどう対処すればよいか	岩波現代全書
クロス 京子	移行期正義と和解——規範の多系的伝播・受容過程	有信堂高文社
高坂 正堯	世界地図の中で考える	新潮選書
杉田 敦 (編)	岩波講座 現代 4 グローバル化のなかの政治	岩波書店
土屋 大洋	暴露の世紀——国家を揺るがすサイバーテロリズム	角川新書
土佐 弘之	境界と暴力の政治学——安全保障国家の論理を超えて	岩波書店
ダグラス・C・ノース (著), 瀧澤 弘和、中林 真幸 (監訳), 水野 孝之、川嶋 稔哉、高槻 泰郎、結城 武延 (訳)	ダグラス・ノース——制度原論	東洋経済新報社
橋爪 大三郎	戦争の社会学——はじめての軍事・戦争入門	光文社新書
広島市立大学広島平和研究所 (監修), 吉川 元、水本 和実 (編)	なぜ核はなくならないのか 2 「核なき世界」への視座と展望	法律文化社
松下 洵、藤田 憲 (編)	グローバル・サウスとは何か	ミネルヴァ書房
松本 太	世界史の逆襲——ウェストファリア・華夷秩序・ダーイシュ	講談社
的場 哲朗 (編)	白鷗大学法政策研究所叢書 第一次世界大戦と現代	丸善プラネット
最上 敏樹	国際機構論講義	岩波書店
ジェイムズ・D・モロー (著), 石黒 馨 (訳)	政治学のためのゲーム理論	勁草書房
山内 昭人	戦争と平和、そして革命の時代のインタナショナル	九州大学出版会
山田 真裕	政治参加と民主政治	東京大学出版会

[日本関係]

麻田 雅文	シベリア出兵——近代日本の忘れられた七年戦争	中公新書
新谷 卓	終戦と近衛上奏文——アジア・太平洋戦争と共産主義陰謀説	彩流社
五百旗頭 真、中西 寛 (編)	高坂正堯と戦後日本	中央公論新社
伊藤 之雄	元老—近代日本の真の指導者たち	中公新書
井上 寿一	昭和の戦争——日記で読む戦前日本	講談社現代新書
宇野 重規 (編)	リーディングス 戦後日本の思想水脈 3 民主主義と市民社会	岩波書店

枝村 純郎（著），中島 琢磨、昇 亜美子（編）	外交交渉回想——沖繩返還・福田ドクトリン・北方領土	吉川弘文館
大日方 純夫	日本近代の歴史 2 「主権国家」成立の内と外	吉川弘文館
勝田 政治	大久保利通と東アジア——国家構想と外交戦略	吉川弘文館歴史文化ライブラリー
加藤 朗	日本の安全保障	ちくま新書
加藤 陽子	戦争まで——歴史を決めた交渉と日本の失敗	朝日出版社
何 鵬挙	政道と政体——近代日本における中国観察	勁草書房
河西 晃祐	大東亜共栄圏——帝国日本の南方体験	講談社選書メチエ
北岡 伸一、久保 文明（監修），公益財団法人世界平和研究所（編）	希望の日米同盟——アジア太平洋の海洋安全保障	中央公論新社
金 ゼンマ	日本の通商政策転換の政治経済学——FTA/TPPと国内政治	有信堂高文社
國廣 道彦（著），服部 龍二、白鳥 潤一郎（解題）	回想 「経済大国」時代の日本外交——アメリカ・中国・インドネシア	吉田書店
久保田 裕次	対中借款の政治経済史——「開発」から二十一カ条要求へ	名古屋大学出版会
栗山 尚一	戦後日本外交——軌跡と課題	岩波現代全書
河野 康子、渡邊 昭夫（編）	安全保障政策と戦後日本 1972～1994——記憶と記録の中の日米安保	千倉書房
古結 諒子	日清戦争における日本外交——東アジアをめぐる国際関係の変容	名古屋大学出版会
後藤 春美	国際主義との格闘——日本、国際連盟、イギリス帝国	中公叢書
酒井 哲哉（編）	リーディングス 戦後日本の思想水脈 1 平和国家のアイデンティティ	岩波書店
酒井 哲哉（編）	リーディングス 戦後日本の思想水脈 4 日常からの挑戦	岩波書店
嗟峨 隆	アジア主義と近代日中の思想的交錯	慶應義塾大学出版会
櫻澤 誠	沖縄の保守勢力と「島ぐるみ」の系譜——政治結合・基地認識・経済構想	有志舎
佐藤 元英、服部 龍二（編）	中央大学政策文化総合研究所研究叢書 日本外交のアーカイブズ学的研究 2	中央大学出版部
篠田 英朗	選書〈風のビブリオ〉 集団的自衛権の思想史——憲法九条と日米安保	風行社
白石 隆	海洋アジアVS. 大陸アジア——日本の国家戦略を考える	ミネルヴァ書房
瀬川 高央	米ソ核軍縮交渉と日本外交——INF問題と西側の結束 1981-1987	北海道大学出版会
関口 哲矢	昭和期の内閣と戦争指導体制	吉川弘文館
関 誠	日清開戦前夜における日本のインテリジェンス——明治前期の軍事情報活動と外交政策	ミネルヴァ書房
添谷 芳秀	安全保障を問いなおす 「九条-安保体制」を越えて	NHK新書
添谷 芳秀（編）	慶應義塾大学東アジア研究所叢書 秩序変動と日本外交——拡大と収縮の七〇年	慶應義塾大学出版会
高嶺 司	日本の対中国関与外交政策——開発援助からみた日中関係	明石書店

『中国人の日本観』編集委員会 (編)	中国人の日本観 第1巻 古代から二十一か条要求まで	社会評論社
土田 哲夫 (編)	近現代東アジアと日本——交流・相剋・共同体	中央大学出版部
中谷 直司	強いアメリカと弱いアメリカの狭間で——第一次世界大戦後の東アジア秩序をめぐる日米英関係	千倉書房
西原 正 (監修), 平和・安全保障研究所 (編)	探るアジアのパワーバランス 連携進める日米豪印——年報「アジアの安全保障2016 - 2017」	朝雲新聞社
野添 文彬	沖縄返還後の日米安保——米軍基地をめぐる相克	吉川弘文館
野村 佳正	「大東亜共栄圏」の形成過程とその構造——陸軍の占領地軍政と軍事作戦の葛藤	錦正社
長谷川 雄一	近代日本の国際認識	芦書房
秦 郁彦	昭和史の軍人たち	文春学藝ライブラリー
服部 龍二	田中角栄——昭和の光と闇	講談社現代新書
潘 洵著、徐 勇、波多野 澄雄 (監修), 柳 英武 (訳)	重慶大爆撃の研究	岩波書店
保坂 正康	昭和天皇実録 その表と裏 3 日中戦争の時代	毎日新聞出版
細谷 雄一	安保論争	ちくま新書
増田 弘 (編)	戦後日本首相の外交思想——吉田茂から小泉純一郎まで	ミネルヴァ書房
水島 治郎 (編)	保守の比較政治学——欧州・日本の保守政党とポピュリズム	岩波書店
三谷 太一郎	戦後民主主義をどう生きるか	東京大学出版会
三谷 博 (監修), クロード・ア モン、廣瀬 緑 (編)	近代日本とアジア——地政学的アプローチから	勉誠出版
蓑原 俊洋	アメリカの排日運動と日米関係——「排日移民法」はなぜ成立したか	朝日選書
蓑原 俊洋、奈良岡 聡智 (編)	ハンドブック近代日本外交史——黒船来航から占領期まで	ミネルヴァ書房
宮城 大蔵	現代日本外交史——冷戦後の模索、首相たちの決断	中公新書
宮城 大蔵、渡辺 豪	普天間・辺野古——歪められた二〇年	集英社新書
牟 倫海	戦後日本の対外文化政策——1952年から72年における再編成の模索	早稲田大学出版部
森山 優	日米開戦と情報戦	講談社現代新書
八代 尚宏	シルバー民主主義——高齢者優遇をどう克服するか	中公新書
山本 文史	日英開戦への道——イギリスのシンガポール戦略と日本の南進策の真実	中公叢書
油井 大三郎	増補新装版 未完の占領改革——アメリカ知識人と捨てられた日本民主化構想	東京大学出版会
兪 敏浩、今野 茂充 (編)	東アジアのなかの日本と中国——規範・外交・地域秩序	晃洋書房
吉田 律人	軍隊の対内的機能と関東大震災——明治・大正期の災害を中心に	日本経済評論社
吉野作造講義録研究会 (編)	吉野作造政治史講義録——矢内原忠雄・赤松克麿・岡義武ノート	岩波書店
李 彦銘	日中関係と日本経済界——国交正常化から「政経冷熱まで	勁草書房
渡邊 昭夫 (編)	21世紀を創る——大平正芳の政治的遺産を継いで	PHP研究所

[アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係]

家近 亮子、川島 真	東アジアの政治社会と国際関係	放送大学教育振興会
池内 恵	増補新版 イスラーム世界の論じ方	中央公論新社
池内 恵	【中東大混迷を解く】 サイクス＝ピコ協定——百年の呪縛	新潮選書
石川 亮太	近代アジア市場と朝鮮——開港・華商・帝国	名古屋大学出版会
宇山 智彦（編）	ユーラシア近代帝国と現代世界	ミネルヴァ書房
大内 憲昭、渡辺 憲正（編）	東アジアの政治と文化——近代化・安全保障・相互交流史	明石書店
大庭 三枝（編）	東アジアのかたち——秩序形成と統合をめぐる日米中ASEANの交差	千倉書房
岡田 勇	資源国家と民主主義——ラテンアメリカの挑戦	名古屋大学出版会
岡本 隆司	中国の論理	中公新書
加々美 光行	未完の中国——課題としての民主化	岩波書店
ケント・カルダー（著）、長谷川 和弘（訳）	シンガポール——スマートな都市、スマートな国家	中央公論新社
河合 恒生	キューバ革命 1953～1959年	有志舎
川島 真	21世紀の「中華」——習近平中国と東アジア	中央公論新社
金 香男（編）	アジア共同体への信頼醸成に何が必要か——リージョナリズムとグローバリズムの狭間で	ミネルヴァ書房
後藤 晃、長沢 栄治（編）	現代中東を読み解く——アラブ革命後の政治秩序とイスラーム	明石書店
後藤 政子	キューバ現代史——革命から対米関係改善まで	明石書店
酒井 啓子	移ろう中東、変わる日本 2012 - 2015	みすず書房
酒井 啓子（編）	途上国における軍・政治権力・市民社会——21世紀の「新しい」政軍関係	晃洋書房
酒井 裕美	開港期朝鮮の戦略的外交 1882 - 1884	大阪大学出版会
塩尻 和子（編）	変革期イスラーム社会の宗教と紛争	明石書店
塩出 浩之（編）	公論と交際の東アジア近代	東京大学出版会
新保 敦子、阿古 智子（編）	超大国・中国のゆくえ 5 勃興する「民」	東京大学出版会
関根 謙（編）	慶應義塾大学東アジア研究所叢書 近代中国その表象と現実——女性・戦争・民俗文化	平凡社
高橋 和夫	中東から世界が崩れる——イランの復活、サウジアラビアの変貌	NHK出版新書
武貞 秀士	なぜ韓国外交は日本に敗れたのか——激変する東アジアの国家勢力図	PHP新書
田村 慶子	シンガポールの基礎知識	めこん
東郷 和彦、A・N・パノフ（編）	ロシアと日本——自己意識の歴史を比較する	東京大学出版会
内藤 正典	トルコ——中東情勢のカギをにぎる国	集英社

中嶋 嶺雄（著），中嶋嶺雄著作 選集編集委員会（編）	中嶋嶺雄著作選集 3 裏切られた民主革命	桜美林大学北東アジア 総合研究所
中田 考	イスラームの論理	筑摩選書
范 力	民主主義を相対化する中国	時潮社
菱田 雅晴、鈴木 隆（編）	超大国・中国のゆくえ 3 共産党とガバナンス	東京大学出版会
藤田 覚（編）	幕藩制国家の政治構造	吉川弘文館
本田 善彦	台湾と尖閣ナショナリズム——中華民族主義の実像	岩波書店
松尾 昌樹、岡野 内正、吉川 卓 郎（編）	中東の新たな秩序	ミネルヴァ書房
三船 恵美	中国外交戦略——その根底にあるもの	講談社選書メチエ
毛里 和子	中国政治——習近平時代を読み解く	山川出版社
毛里 和子、毛里 興三郎（訳）	ニクソン訪中機密会談録（増補決定版）	名古屋大学出版会
安田 淳、門間 理良（編）	慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究選書 台湾をめぐる安全保障	慶應義塾大学出版会
山田 満（編）	東南アジアの紛争予防と「人間の安全保障」——武力紛争、難民、災害、社会的排除への対応と解決に向けて	明石書店
山本 真	慶應義塾大学東アジア研究所現代中国研究選書 近現代中国における社会と国家——福建省での革命、行政の制度化、戦時動員	創土社
李 穂枝	朝鮮の対日外交戦略——日清戦争前夜 1876 - 1893	法政大学出版局
廉 舒	中国外交とプラグマティズム 一九五〇年代	慶應義塾大学出版会

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

会田 弘継	トランプ現象とアメリカ保守思想——崩れ落ちる理想国家	左右社
安達 祐子	現代ロシア経済——資源・国家・企業統治	名古屋大学出版会
新垣 拓	ジョンソン政権における核不拡散政策の変容と進展	ミネルヴァ書房
板橋 拓己	黒いヨーロッパ——ドイツにおけるキリスト教保守派の「西洋（アーベントラント）」主義、1925～1965年	吉田書店
市之瀬 敦	ポルトガル——震災と独裁、そして近代へ	現代書館
伊藤 武	イタリア現代史——第二次世界大戦からベルルスコーニ後まで	中公新書
遠藤 乾	欧州複合危機——苦悶するEU、揺れる世界	中公新書
大井 知範	世界とつながるハプスブルク帝国——海軍・科学・植民地主義の連動	彩流社
大沢 秀介	アメリカの司法と政治	成文堂
太田 宏	主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治——持続可能社会への選択	東信堂
大津留（北川） 智恵子	アメリカが生む／受け入れる難民	関西大学出版部

岡澤 憲芙、斉藤 弥生 (編)	スウェーデン・モデル——グローバリゼーション・揺らぎ・挑戦	彩流社
岡部 みどり (編)	人の国際移動とEU——地域統合は「国境」をどのように変えるのか?	法律文化社
小野沢 透	幻の同盟——冷戦初期アメリカの中東政策	名古屋大学出版会
チャールズ・カプチャン	ポスト西洋世界はどこに向かうのか——「多様な近代」への大転換	勁草書房
川越 修、河合 信晴 (編)	歴史としての社会主義——東ドイツの経験	ナカニシヤ出版
菅 英輝	冷戦と「アメリカの世紀」——アジアにおける「非公式帝国」の秩序形成	岩波書店
君塚 直隆、細谷 雄一、永野 隆行 (編)	イギリスとアメリカ——世界秩序を築いた四百年	勁草書房
木村 汎	プーチン——内政的考察	藤原書店
イリジャ・H・グールド (著), 森 丈夫 (監訳), 松隈 達也、笠井 俊和、石川 敬史、朝立 康太郎、田宮 晴彦 (訳)	アメリカ帝国の胎動——ヨーロッパ国際秩序とアメリカの独立	彩流社
小久保 康之 (編)	東洋英和女学院大学社会科学叢書 EU統合を読む——現代ヨーロッパを理解するための基礎	春風社
下河辺 美知子 (編)	モンロー・ドクトリンの半球分割——トランスナショナル時代の地政学	彩流社
下斗米 伸夫	宗教・地政学から読むロシア——「第三のローマ」をめざすプーチン	日本経済新聞社
庄司 克宏	欧州の危機——Brexitショック	東洋経済新報社
鈴木 透	実験国家アメリカの履歴書——社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡 (第2版)	慶應義塾大学出版会
高橋 進、石田 徹 (編)	「再国民化」に揺らぐヨーロッパ——新たなナショナリズムの隆盛と移民排斥のゆくえ	法律文化社
高橋 義彦	カール・クラウスと危機のオーストリア——世紀末・世界大戦・ファシズム	慶應義塾大学出版会
立山 良司	ユダヤとアメリカ——揺れ動くイスラエル・ロビー	中公新書
田中 素香	ユーロ危機とギリシャ反乱	岩波新書
谷藤 悦史	赤いバラは散らない——英国労働党の興亡	一藝社
天理大学EU研究会 (編)	ドイツ統一から探るヨーロッパのゆくえ	法律文化社
中村 登志哉 (編)	戦後70年を越えて——ドイツの選択・日本の関与	一藝社
西川 賢	ビル・クリントン——停滞するアメリカをいかに建て直したか	中公新書
西谷 修	アメリカ——異形の制度空間	講談社選書メチエ
野宮 大志郎、西城 戸誠 (編)	サミット・プロテスト——グローバル化時代の社会運動	新泉社
墓田 桂	難民問題——イスラム圏の動揺、EUの苦悩、日本の課題	中公新書
橋口 豊	戦後イギリス外交と英米間の「特別な関係」——国際秩序の変容と揺れる自画像、1957~1974年	ミネルヴァ書房
羽場 久美子	ヨーロッパの分断と統合 拡大EUのナショナリズムと境界線——包摂か排除か	中央公論新社
坂東 省次 (監修), 牛島 万 (編)	現代スペインの諸相——多民族国家への射程と相克	明石書店
福田 耕治	EU・欧州統合研究——“Brexit”以後の欧州ガバナンス (改訂版)	成文堂

藤本 一美	戦後アメリカ大統領シリーズ アメリカ再生を掲げた大統領・ビル・クリントン——その功績と足跡	志學社
アーロン・L・フリードバーグ (著), 平山 茂敏 (監訳)	アメリカの対中軍事戦略——エアシー・バトルの先にあるもの	芙蓉書房
細田 晴子	カストロとフランコ——冷戦期外交の舞台裏	ちくま新書
細谷 雄一	迷走するイギリス——EU離脱と欧州の危機	慶應義塾大学出版会
待鳥 聡史	アメリカ大統領制の現在——権限の弱さをどう乗り越えるか	NHKブックス
松岡 完	超大国アメリカ100年史——戦乱・危機・協調・混沌の国際関係史	明石書店
松本 佐保	熱狂する「神の国」アメリカ——大統領とキリスト教	文春新書
宮下 雄一郎	第二次世界大戦期の政治と外交——フランス再興と国際秩序の構想	勁草書房
宮島 喬	現代ヨーロッパと移民問題の原点——1970、80年代、開かれたシティズンシップの生成と試練	明石書店
山岸 敬和、西川 賢	ポスト・オバマのアメリカ	大学教育出版
山本 健三	帝国・“陰謀”・ナショナリズム——「国民」統合過程のロシア社会とバルト・ドイツ人	法政大学出版局
豊 嘉哲	欧州統合と共通農業政策	芦書房
渡辺 将人	アメリカ政治の壁——利益と理念の狭間で	岩波新書

【資料】

石井 修 (監修)	アメリカ合衆国対日政策文書集成 38～39	柏書房
宮内庁 (編)	昭和天皇実録 第五～第九	東京書籍
国際連合統計局 (編), 原書房 (訳)	国際連合世界統計年鑑 58集 2013	原書房
戸高 一成 (編)	証言録 海軍反省会 8～9	PHP研究所
広島市立大学広島平和研究所 (編)	平和と安全保障を考える事典	法律文化社
ヨーロッパ連合 (編), 猪口 孝 (監訳), 藤井 真人 (訳)	ヨーロッパ統計年鑑2013 - 14 データと図表で見るヨーロッパ案内	柘風舎
ヨーロッパ連合 (編), 猪口 孝 (監訳), 藤井 真人 (訳)	ヨーロッパ統計年鑑2015 データと図表で見るヨーロッパ案内	柘風舎

論文（国際政治・外交史）

【一般】

有江 浩一	非核兵器技術の開発と抑止との関係—極超音速兵器を中心に	防衛研究所紀要19 (1)
飯田 敬輔	主要国の国際秩序観と外交—比較のための手がかりとして	レヴァイアサン58
一政 祐行	ブラックアウト事態に至る電磁パルス（EMP）脅威の諸相とその展望	防衛研究所紀要18 (2)
伊藤 岳	内戦における暴力行使の帰結—空間計量経済／統計モデルによるアプローチ	レヴァイアサン59
林 載桓	権威主義体制、独裁者、戦争—貿易交渉権限を巡る議会と大統領の攻防	国際政治184
植木 安弘	国連事務総長—選出の歴史と役割の変遷	国連研究17
内田 孟男	グローバル・ガバナンスにおける国連の役割	国連研究17
浦田 秀次郎	グローバリゼーションと格差問題	国際問題657
大芝 亮	戦後70年と日本の国連外交	国連研究17
大平 剛	新興開発パートナーと国際開発レジーム—「開発」をめぐる「グローバル・サウス」と「グローバル・ノース」の政治的攻防	国際政治183
岡部 恭宜	新興民主主義国における執政府の抑制—司法府と独立国家機関	日本比較政治学会年報18
荻部 直	「国連中心主義」の起源	レヴァイアサン58
川口 礼人	今後の軍事科学技術の進展と軍備管理等に係る—考察—自律型致死兵器システム（LAWS）の規制等について	防衛研究所紀要19 (1)
川村 幸城	国家安全保障機構における情報フローの組織論的分析—情報フローの形態と対外政策への影響について	防衛研究所紀要19 (1)
佐藤 哲夫	国際連合の70年と国際法秩序—国際社会と国際連合における法の支配の発展	国連研究17
城山 英明	多様な国際制度とサミット	国際問題651
杉浦 功一	グローバル・ガバナンスの「民主化」は可能か？	グローバル・ガバナンス3
高橋 和宏	南北問題と戦後国際経済秩序—第一回UNCTADをめぐる国際関係	国際政治183
田所 昌幸	サミットの意義と展望	国際問題651
田所 昌幸	パワーシフトと国家の人口規模	国際政治183
田中 極子	デュアルユース・ジレンマとバイオテロ対策	国際安全保障44 (2)
田辺 亮	国連PKOへの人的資源の提供に関する考察—1985-1995年と1996-2008年の比較	国連研究17
長久 明日香	農業貿易自由化交渉と消費者—WTOドーハラウンドを事例に	国際政治184
野呂 尚子	核セキュリティ・サミットの成果と残された課題	国際安全保障44 (2)
蓮生 郁代	国連安保理改革とアカウンタビリティの概念の歴史的変容—プラグマティックな多元的統制メカニズムの構築へ	国際政治185

濱村 仁	「休戦ライン」としての核不拡散体制—衝突する規範の妥協と二重基準論争	国際政治184
藤井 広重	国連と国際的な刑事裁判所—アフリカ連合による関与の意義、課題及び展望	国連研究17
松岡 智之	力の非対称性の逆説—強要における過信と楽観	国際政治184
宮城 大蔵	新興国台頭と国際秩序の変遷	国際政治183
望月 康恵	安保理改革の展望	国際問題654
矢野 麻美子	平和構築と「適切な居住の権利」保障—国連平和維持活動の可能性	国連研究17
山口 育人	ブレトンウッズ体制崩壊後の国際通貨制度の再編成—新興国の挑戦から再考する	国際政治183
山田 哲也	国連による平和構築と移行期正義—軌跡と展望	国際問題654
渡邊 智明	民主的システムは地球環境ガバナンスを支える？ ガバナンスの時空間と民主主義との関係をめぐって	グローバル・ガバナンス3
渡邊 理絵	気候政策転換における科学的知見と科学者の役割—理論・実証先行研究レビューに基づいた分析枠組と仮説の構築	グローバル・ガバナンス3

【日本関係】

明石 康	日本の国連外交60周年に際して	国際問題654
石丸 安蔵	日本海軍の予備員制度について—制度の沿革と運用	防衛研究所紀要19 (1)
板山 真弓	日米同盟における軍事委員会設置構想とその挫折	国際安全保障43 (4)
馬田 啓一	ポストTPPとアジア太平洋の新秩序—日本の役割	国際問題652
大西 裕	2016年国会議員総選挙が朴槿恵政権に与える意味	国際問題655
大矢根 聡	新興国の馴化—一九七〇年代末の日本のサミット外交	国際政治183
小此木 政夫	国際システムのなかの日韓関係—いま、われわれはどこにいるのか	国際問題655
荊尾 遥	日本の核軍縮分野における取組と国連	国際安全保障43 (4)
草野 大希	日米の台頭と地域的国際秩序の連鎖—東アジアと米州における覇権の正当化とモンロー主義	国際政治183
工藤 信弥	日中戦争期日本陸軍における宣撫工作と映画交流—民心獲得のための活動として	軍事史学52 (2)
酒井 啓亘	国連平和活動と日本の国際平和協力の今後—「9条-PKO活動原則体制」の下での課題	国際問題654
佐藤 智美	自衛隊におけるPKOの再検証と「カンボジア方式」の展望—西元オーラル・ヒストリーを中心に	国際安全保障44 (3)
真田 尚剛	防衛政策・自衛隊の正当性の揺らぎ—1970年代前半における国内環境と防衛大綱に至る過程	年報政治学2016 (1)
高田 治彦	海軍兵学校教程へのドルトン・プランの導入と放棄について—永野修身による「新学習法」の評価と影響の考察	防衛研究所紀要18 (2)
高橋 杉雄	基盤的防衛力構想からの脱却—ミッション志向型防衛力の追求	国際安全保障44 (3)
橋本 俊詔	深刻化する日本の格差問題	国際問題657
田中 明彦	サミットと日本	国際問題651
店田 廣文	日本におけるムスリム移民・難民の現状と課題	中東研究528

張 雲	日中の誤認知と相互不信の再生産のメカニズム—日中「三・一一災害外交」の失敗をケースに	国際政治184
鶴岡 路人	日英、日仏の安全保障・防衛協力—日本のパートナーとしての英仏比較	防衛研究所紀要19 (1)
徳地 秀士	「日米防衛協力のための指針」からみた同盟関係—「指針」の役割の変化を中心として	国際安全保障44 (1)
中澤 克二	新興国台頭、揺らぐサミット	国際問題651
仲宗根 卓	国連を通じた国際刑事法の発展と日本—国際刑事裁判所に関するローマ規程を事例として	国際安全保障43 (4)
野中 尚人	戦後日本政治はマジョリタリアン型か—川人貞史『議院内閣制』をめぐる検証と日本型の「議会合理化」	日本比較政治学会年報18
樋口 秀実	日本陸軍の中国認識の変遷と「分治合作主義」	アジア経済57 (1)
藤重 博美	国連平和維持活動の潮流と日本の政策—5つの政策課題における「PK0ギャップ」に注目して	国際安全保障43 (4)
星野 俊也	日本と国連の60年—その成果と展望	国際安全保障43 (4)
細谷 雄一	21世紀の同盟関係—日本の視座から	国際安全保障44 (1)
松岡 広哲、中島 信吾	「所要防衛力」から「基盤的防衛力」への転換期における政策決定に関する考察	国際安全保障44 (3)
宮城 佑輔	日本における排外主義運動とその中国・韓国・北朝鮮観—新旧保守メディアの比較から	アジア研究62 (2)
村上 友章	冷戦終結後の安全保障理事会と日本—「失われた20年」の国連外交	国際安全保障43 (4)
横田 洋三	国連機関への日本の人的・財政的貢献	国際問題654
吉田 真吾	「51大綱」下の防衛力整備—シーレーン防衛を中心に、1977-1987年	国際安全保障44 (3)

【アジア・中東・アフリカ・ラテンアメリカ・オセアニア関係】

青山 弘之	「シリア内戦」におけるイスラーム国の「存在意義」	国際問題656
青山 弘之	地域研究が読み解く世論調査—中東世論調査（シリア2016年）	中東研究527
青山 瑠妙	台頭を目指す中国の対外戦略	国際政治183
阿古 智子	現代中国における「公民運動」のポテンシャル—定まらない「公」と「私」のはざままで	国際問題649
浅羽 祐樹	韓国総選挙における候補者選出方法の変化と大統領による政党統制	日本比較政治学会年報18
池内 恵	「大国エジプト」の没落と再興—紅海岸諸国の雄としての台頭	国際問題656
石川 幸一	ASEAN経済共同体の創設—成果と課題	アジア研究62 (3)
伊豆山 真理	インドの装備調達—買い手からつくり手へ？	防衛研究所紀要18 (2)
井上 浩子	リベラル平和構築とローカルな法秩序—東ティモールにおける司法制度の構築をめぐる	国際政治185
岩坂 将充	議院内閣制における政治の「大統領制化」—トルコ・エルドアン体制と大統領権限の強化	日本比較政治学会年報18
大江 博	TPP合意とアジア太平洋通称秩序	国際問題652
大橋 英夫	TPPと中国の「一帯一路」構想	国際問題652
大森 信夫	中国における産業クラスターの立地の変化—工業の個票データを用いた県レベル分析	アジア研究62 (3)

奥田 聡	韓国のTPP参加表明—その背景と見通し	国際問題652
片岡 貞治	アフリカにおける安全保障問題の現状	国際問題650
金子 真夕	シリア難民をめぐるトルコと欧州の攻防—不安定化するトルコ、右傾化する欧州	中東研究528
上 英明	外交から国内政治へ—移民交渉、ラジオ・マルティ、および米・キューバの対立が冷戦後に持ち越されたことについて	ラテンアメリカ研究年報36
茅根 由佳	民主化期のインドネシアにおける政治的競争パターンの変化—石油ガス政策を事例として	アジア研究62 (4)
川村 藍	湾岸諸国におけるイスラーム金融の法制度とその新潮流	中東研究528
菅野 守	パレスチナの国家性—国家性についての国際法上の観点からの検討	中東研究527
私市 正年	アルジェリアの権力闘争とDRSの支配—政治の現状とポスト・ブーテフリカの考察	中東研究526
北岡 伸一	発展するアフリカと新たな課題	国際問題650
北川 将之	カルナータカ州の留保制度と政治	アジア研究62 (4)
北澤 義之	現代ヨルダンにおける「部族政治」の変容	中東研究526
金 恩貞	1950年代初期、日本の対韓請求権交渉案の形成過程—「相互放棄プラスアルファ」案の形成を中心に	アジア研究62 (1)
倉田 秀也	朴槿恵政権と日米韓安保関係の再調整—拒否的抑止の地域的連動	国際問題655
巖 善平	中国の格差	国際問題657
高 賢来	韓国輸出志向工業化の初期条件の形成—アイゼンハワー政権期米韓の為替改革をめぐる協議過程を中心に	国際政治184
小西 鉄	インドネシアにおける企業ガバナンスと国際ファイナンス—バクリ・グループによる英国証券取引所シティへの進出	アジア研究62 (2)
小林 周	移民の「経由地」と「目的地」としてのリビア—内戦後の情勢流動化が与えた影響	中東研究528
近藤 重人	サウジアラビアの経済・財政改革—原油価格の低迷と脱石油化の試み	中東研究526
酒井 啓子	現代イラク政治における部族と政治権力の関係	中東研究526
佐々木 智弘	反腐敗闘争の政治学	国際問題649
志賀 美和子	地域主義政党は中央政府への参加を志向するか—ドラヴィダ主義政党の場合	アジア研究62 (4)
清水 一史	世界経済におけるASEAN経済共同体と日本	アジア研究62 (3)
白谷 望	現代モロッコにおけるアマズィグの政治的役割	中東研究526
白戸 圭一	現代アフリカの「中間層」再考—アフリカでのビジネス展開に向けて	国際問題650
朱 海燕	中国の共産主義と反キリスト教運動—1922年の世界キリスト教学生同盟会議の開催への反対	アジア研究62 (3)
杉浦 康之	中国人民解放軍の統合作戦体制—習近平政権による指揮・命令系統の再編を中心に	防衛研究所紀要19 (1)
杉田 弘也	オーストラリアの執政制度—労働党政権 (2007-13) にみる大統領制の可能性	日本比較政治学会年報18
助川 成也	「単一の市場と生産基地」を目指すASEAN—AFTAによる貿易自由化を中心に	アジア研究62 (3)
鈴木 絢女	アジア通貨危機後のマレーシア—彷徨する国家と財政赤字	国際政治185
高岡 豊	「部族」という観点から見るシリア紛争	中東研究526

鷹木 恵子	チュニジアにおける『個人地位法』制定から60年目の論争—相続の男女平等と女性の配偶者選択の自由をめぐって	中東研究528
高橋 正樹	一九九七年憲法とタクシンによる政治の国民化—タイ政治の分岐点をめぐって	国際政治185
立山 良司	中東の混乱の背景にあるもの—非国家主体の台頭とパワー・バランスの変化	国際問題656
田村 慶子	シンガポール二〇一五年総選挙と権威主義体制の行方	国際政治185
畝 伊智朗	TICAD VI アフリカ開催の背景と課題	国際問題650
杜 進	成長減速、構造調整、体制改革の現段階	国際問題649
内藤 正典	クーデター未遂事件後のトルコ—内政と外交の課題	国際問題656
永井 史男	変動期東南アジアの内政と外交	国際政治185
中兼 和津次	「新常态」と新「中華帝国」の夢—習近平政権をどう捉えるか	国際問題649
中西 久枝	イラン—2つの選挙と今後のイラン外交	中東研究526
西野 正巳	「アラブの春」後の中東情勢（2011～2015）の概況と考察	防衛研究所紀要19（1）
貫井 万里	核合意後のイラン内政と制裁下に形成された経済構造の抱える問題	国際問題656
浜中 新吾、高岡 豊、溝渕 正季	紛争地域での国内政治と国際政治の連関—自然実験によるレバノン市民の態度変容へのアプローチ	レヴァイアサン58
潘 亮	国際組織における「新興文化大国・中国」の浮沈—草創期のユネスコと中国の二つの政権	国際政治183
平岩 俊司	中韓関係の「変動」と北朝鮮	国際問題655
平野 聡	中国の「平和的台頭」は国際協調的だったか	レヴァイアサン58
福田 安志	サウジアラビアの中東政策	国際問題656
福西 隆弘	経済成長の持続に向けて—産業構造の多様化への高い壁	国際問題650
増原 綾子	民主化期インドネシアにおける脅威認識の変容と政軍関係	国際政治185
松本 弘	イエメンにおける政治と部族	中東研究526
宮川 元	アラビア語と商標—アラビア語を含む商標と商標実務の関係について	中東研究528
三輪 博樹	インドにおける新州創設をめぐる人々の運動と政党政治—テランガーナ州創設の事例から	アジア研究62（4）
山口 信治	中国の国際秩序認識の基礎と変化	防衛研究所紀要18（2）
山下 光	アフリカにおける平和維持活動能力整備と能力構築支援	防衛研究所紀要19（1）
山田 満	東南アジア・同境界地域の紛争解決と平和構築—深南部タイとミンダナオの二つの紛争を事例にして	国際政治185
劉 仙姫	朴正熙の核開発計画と米国外交	国際政治184
横山 久幸	中国における武器禁輸協定の破棄と兵器同盟の破綻	軍事史学（2）
和田 洋典	対外経済上の「攻勢」がもつ潜在性—AIIBは多角主義と地域主義に何をもちこたすか	国際問題649

【アメリカ・ヨーロッパ関係】

青木 健太	オバマ政権のアフガニスタン政策—ターリバーンに対する軍事・和平戦略と今後の展望	中東研究527
網谷 龍介	20世紀ヨーロッパにおける政党デモクラシーの現実モデル—H. ケルゼンの民主制論を手がかりに	年報政治学2016（2）

石田 周	EUの国家補助規制を通じた公的銀行に対する保証制度の廃止—EUの民間銀行の役割に着目して	日本EU学会年報36
石原 雄介	米豪同盟と中国—「二重のトレンド」の顕在化	国際安全保障44 (1)
伊藤 頌文	キプロス危機とイギリス外交—東地中海の「帝国の残滓」と同盟の狭間、一九七四年	国際政治184
江崎 智絵	オバマ政権期の米・イスラエル関係と中東和平プロセス	中東研究527
大嶋えり子	フランスにおけるアルジェリアに関わる「記憶関連法」—記憶と国民的結合を巡って	国際政治184
ケント・E・カルダー	2016年アメリカ大統領選に投じられた深い影	国際問題653
久保 文明	8年目のオバマ外交	国際問題653
小泉 悠	中東に対するロシアの軍事的関与—その現状と今後	中東研究528
小久保 康之	スイスのEU政策	日本EU学会年報36
阪田 恭代	米国のアジア太平洋リバランス政策と米韓同盟—21世紀「戦略同盟」の三つの課題	国際安全保障44 (1)
佐藤 智恵	EUの環境責任指令の適用と課題	日本EU学会年報36
下斗米 伸夫	G7からG8へ、そしてG7への回帰？ロシアとサミット	国際問題651
鈴木 弘隆	日米英の経験に学ぶECBの量的緩和 (QE) とEU域内格差	日本EU学会年報36
高倉 成男	EUにおける農業と知的財産	日本EU学会年報36
武田 悠	米国の国防政策と「防衛計画の大綱」	国際安全保障44 (3)
武田 悠	米国の対外原子力政策における同盟国の役割—包括的事前同意制度の成立、一九七七—一九八二	国際政治185
田中 俊郎	EUとアジア—相互にとっての意味	日本EU学会年報36
田中 素香	EUの格差—リーマン危機後のトレンド転換とBrexit	国際問題657
千田 航	フランス半大統領制における家族政策の削減と再編—1990年代の利益団体の抵抗と「自由選択」	日本比較政治学会年報 18
鶴岡 路人	欧州における同盟、集団防衛、集団的自衛権—新たな脅威へのNATO、EUによる対応	国際安全保障44 (1)
中尾 将人	危機対応としてのECBの金融政策—QEを中心とした非伝統的金融政策の考察	日本EU学会年報36
中島 晶子	左翼ポピュリズムという幻影—ギリシアの急進左翼連合とスペインのポデモスから	年報政治学2016 (2)
新川 匠郎	ドイツの州における大連立—シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の事例を通じて	比較政治研究2
西川 賢	選挙制度改革の政治学—カリフォルニア州のプライマリー改革の事例研究	年報政治学2016 (2)
西川 賢	ポピュリズムによるアメリカ政治の分断—トランプ現象と「不自由な民主主義」	国際問題653
錦田 愛子	ヨーロッパの市民権を求めて—アラブ系移民／難民の移動と受入政策の変容	中東研究528
西山 隆行	大統領選挙年におけるオバマ政権と議会	国際問題653
濱田 太郎	WTO, TPP, FTAとEUの農業政策	日本EU学会年報36
平岡 祥孝	EU主要乳製品輸出の動向	日本EU学会年報36
グレン・S・フクシマ	TPPの政治経済学—米国の視点	国際問題652
藤崎 典夫	EUの予防原則—GMO規制等にみる現状	日本EU学会年報36
藤嶋 亮	半大統領制と政党間競争—ルーマニアとブルガリアの比較から	日本比較政治学会年報 18

舟木 律子	ボリビア小選挙区比例代表併用制における投票行動—白票を含む分割投票の規定要因について	年報政治学2016 (2)
古地 順一郎	カナダ政治における執政府支配の展開—ハーパー保守党政権を中心に	日本比較政治学会年報 18
古矢 旬	「対テロ戦争」下の自由社会	国際問題653
細谷 雄一	イギリスの国際秩序観と外交—合理主義・勢力均衡・国際組織化	レヴァイアサン58
堀口 多喜二	「外国軍隊の訓練」という軍事交流—太平洋戦争期の米軍による中国軍に対する教育訓練	軍事史学52 (2)
松浦 一悦	EUのソブリン危機への対応とガバナンス改革	日本EU学会年報36
三上 陽一	オバマ政権の中東政策—テロ対策、「アラブの春」への対応、湾岸の安全保障	中東研究527
溝渕 正季	「理想」と「現実」のはざまで—混迷するシリアとオバマ政権の苦悩	中東研究527
村上 拓哉	湾岸地域で高まる緊張—オバマ政権の不介入主義と揺らぐ同盟	中東研究527
森 聡	リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合	レヴァイアサン58
安井 明彦	米国の格差—広がる政策対応の視点	国際問題657
山尾 大	介入の縮小という隘路—オバマ政権のイラク政策と広がる宗派对立	中東研究527